

仏様のおはなし新シリーズ第50集その2 「優しい歌」

春吉の専立寺・若院がお話しさせて頂きます。

Mr.children というバンドの「優しい歌」という歌を御存知でしょうか？

「誰かが救いの手を 君に差し出ししてる だけど今はそれに気付けずにいるんだろう」これは冒頭の歌詞です。この歌詞の部分が私は大変大好きで孤独感を感じた時は、いつも心の中で歌っています。この歌詞を思う時、私は同時に阿弥陀仏の事も思うのです。

私達は苦難に遭う時、「どうせだれも自分の事などわかってくれない」とか「自分は独りぼっちなんだ」と塞ぎこんでしまい、周り自分とを隔離してしまいます。「自分はこんなに頑張っているのに…」「誰も自分を認めてくれない」と考えてしまいます。

私達には煩惱というものがくっついてるので、自分の思い通りにいかない世界を、自分の思うように・自分が幸せになるようにしようとするのです。でもそうはいきません。だから、「なんでうまくいかないのだ」と悩み苦しむのです。

阿弥陀仏はそんな私達をみて「なかなかうまくいなくてさぞ辛いだろうね」「あなたが頑張っているのは知ってるよ」「あとは私に任せてね」と語りかけてくださりいつも私と共に生きてくださいます。悲しい時は共に悲しみ、苦しい時は共に苦しみ、うれしい時は共に喜んでくださる、それが仏なのです。

そして、私達にすべてつながり、かかわり合い存在することを「縁起」の法として教えてくださるのです。「決して一人で生きていくのではないのだ。自分の気付かない大勢の陰の力があって、今があるのだ」と。

誰かの支えがあつて私があるのです。そして、また私が誰かの支えとなっていく、私達は常にお互いを支えあいながら生きていくのです。自分は気付いていなくても、支えてくださる大勢の人や物に感謝し、自分さえ良ければいいという傲慢な生き方を戒めながら日々、歩みたいことです。

